

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 H17.3.22~			
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	02 自然と共生するまちづくり
	小項目	施策	01 環境保全
事務事業名			02 休廃止鉱山鉱害防止事業
			根拠法令・規程等
			担当課(室) 環境課
			職・氏名 保全係長・牛屑裕二
			電話 64-1822

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	金剛川、八塔寺川、和意谷川の水を利用する吉永地域及び三石地区の市民・事業者
目的(何のために)	鉱害防止を目的として農作物への被害防止や生活環境の保全を図るため。
行政活動(どのような方法で)	野谷・板屋・金谷の坑廃水処理場で中和処理を行う。吉永町和意谷地区で鉱害防止工事を実施する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	金剛川、八塔寺川、和意谷川の水質を保全し環境基準を達成する。

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
坑廃水処理水量	m ³	228,742	163,163	160,189
事業費	千円	122,138	113,539	74,551
国・県支出金		69230	83899	63185
受益者負担金		374	106	113
市費	千円	52,534	29,534	11,253
受益者負担比率	%	0.3%	0.1%	0.2%

結果指標				
結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
坑廃水処理水量	m ³	228,742	163,163	160,189
対前年対比	%	-	71.3%	98.2%
活動コスト	円	63,350,866	85,657,778	67,934,003
単位当たりコスト	円	277	525	424

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
環境基準超過回数	目標値(A)	0	0	0	0
	実績値(B)	0	0	0	到達目標年度
	達成率(B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	平成21年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
坑水処理場処理水の水質測定で環境基準を超過した回数。 ※H20年度より「水質汚濁防止事業」を、水質汚濁防止事業と休廃止鉱山鉱害防止事業に分けているので、平成18年~平成19年の事業実績より金額が大幅に下がっている。					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	判定理由・課題認識
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	判定理由・課題認識
	市民参画度		

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	160,000	結果指標量②	成果指標量	0	
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	施設の老朽化が進んでいるため坑水処理場の改修工事を行う。					

総合評価		評価区分<A~E>
修繕は出来るだけ入れ・見積競争を取り入れたためコスト削減につながった。国の補助の動向に注視し、できるだけコストがからない鉱害対策を行っていく必要がある。目的である坑廃水の中和処理は達成できている。		B

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	計画的に施設の修繕を進める。					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
効率性	金谷、板屋処理場の施設台帳作成	H21~	中長期的にコストを把握できる。			